

1 研究主題

夢や希望をもち、未来を見つめ明るく元気がんばる新田の子どもの育成

～ 児童生徒の発達段階に応じた9年間の系統的なキャリア教育の推進を通して ～

2 主題設定の理由

現在の子どもたちを取り巻く環境は近年大きく変化している。子どもたちが育つ社会環境の変化に加え、産業・経済の構造的変化、雇用の多様化、流動化等は、子どもたちの将来のとらえ方にも大きな変化をもたらしており、自らの将来に向けて希望あふれる夢を描くことも容易ではなくなってきている。また、環境の変化は、子どもたちの心身の発達にも影響をあたえ、人間関係をうまく築くことができない、自分で意思決定ができない、自己肯定感をもてない、将来に希望をもつことができないなどの子どもの増加が指摘されている。

このようなことから、学級・学校・家庭・地域社会などにおける様々な活動を通して、将来設計の基盤となる「夢や希望」をはぐくみ、目標の達成を目指して工夫し努力することの大切さを体得させ、自信や有用感を高める機会を計画的に設けていくことは非常に重要であり、自分自身を見つめ、社会や人々と自己をつなぎ、将来を描いていく力や、様々な選択肢の中から責任ある生き方を選び取る力の育成が求められている

本校は、新富町の南西部に位置し小学部が各学年1または2学級の256名、中学部が各学年1または2クラスの118名、合計374名の中規模校である。本年度から小中一貫校としてスタートすることとなり、9年間を見通した系統性を生かした継続的な指導が可能となった。素直で元気な児童生徒が多く、学校生活への取り組みも真面目で意欲的である。

学年末に実施したアンケートの結果によると、小学校では90%、中学校では70%の児童生徒が「学校に来るのは楽しい」と答えている。将来についても、小学校では90%、中学校でも70%の児童生徒が「将来の夢や目標」を持ると答えているが、小6児童においては、60%の児童が「中学校生活や中学校の学習に不安がある」としている。また、80%以上の児童生徒が「尊敬する上級生がおり、下級生のお世話も責任もってしたい」と、答えているが、「自分自身の良さ」について気づいている児童生徒は小学校75%、中学校2年生70%、中学校3年生50%で、学年が上がるごとに自己肯定感の低下がうかがえる。最後に、「決めたことに最後まで取り組める」態度については、小学校と中学校女子は70%がやり遂げられていると答えているのに対し、中学校男子は50%近くがやり遂げられてないと答えており、男女差もみられる。

そこで、児童生徒が、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現できるようにするために、本年度は、児童生徒の発達段階に応じた系統的なキャリア教育の推進を図っていくこととした。

キャリア教育とは、児童生徒がキャリアを形成していくために必要な意欲・態度や能力の育成を目標とする教育的はたらきかけである。私たちは、生涯にわたって様々な立場や役割を与

えられ、その時々にあった自分らしい生き方を選択しながら生きており、その過程の中で、自分は何を求めて働くのか、何のために学ぶのか、どのように生きるのか等、自己と働くこと、働くことと生きることを相互に関係づけたり、価値づけたりしている。そこで、こうした生きるうえでの自己と働くこととの関係づけ、価値付けの累積を「キャリア」ととらえる。

さらに、ここでの「働くこと」については、職業生活以外にも家事や学校での係活動、あるいは、ボランティア活動などの多様な活動があることなどから、個人がその学校生活、家庭生活、市民生活などの生活の中で経験する様々な立場や役割を遂行する活動として幅広くとらえる必要がある。

このように、キャリア教育に取り組み推進していくことは、学校生活と社会生活や職業生活との関連を深め、将来の夢と学業を結びつけることであり、従来の教育を見直すことによって教育課程の改善や学校の活性化が図られ、児童生徒の、学習意欲を高め、学習習慣の確立を促すことができると共に、人間関係づくり、不登校等の様々な課題の解決にも活路を開くことができると考えられる。

以上のようなことから、本研究主題を設定し、夢や希望をもち、未来を見つめ明るく元気にがんばる新田の子どもの育成のために研究を進めることとした。

3 研究の目標

- 児童生徒の発達段階に応じた系統的なキャリア教育の推進を通して、夢や希望をもち、未来を見つめ明るく元気にがんばる新田の子どもを育成する。

4 研究仮説

キャリア教育の意義を正しく理解すると共に、本校で育成したい能力・態度を育成するための教育内容や方法を明確化し、自信や有用感を高める機会を計画的に設け、キャリア教育の視点に立った授業実践を行えば、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現できるようになるだろう。

5 研究の内容

キャリア教育の意義を正しく理解し、育成したい能力・態度と各教科等との関連を考えた年間指導計画を作成すると共に、キャリア教育の視点にたった授業を構築する。

- キャリア教育の意義についての理論研究
- キャリア教育を生かした総合的な学習の時間の整備
- キャリア教育の視点に立った授業の構築

1年次

キャリア教育についての理論研究とキャリア教育の考えを生かした授業・教育活動の展開

2年次

キャリア教育の考え方を生かした効果的な小中連携、及び家庭や地域との連携

3年次

キャリア教育を生かした教育活動の評価と改善

6 研究組織

(1) 研究推進委員会

研究の具体化に向けて企画、立案すると共に、各班、各部の提案事項について検討し、研究を推進する。

構成：学校長、教頭、教務主任、研究主任、各班長（小学部・中学部）その他関係者

(2) 全体研修会

研究の内容についての理論研を進めると共に、各班、各部の提案事項の報告・検討を行い、共通理解を図る。

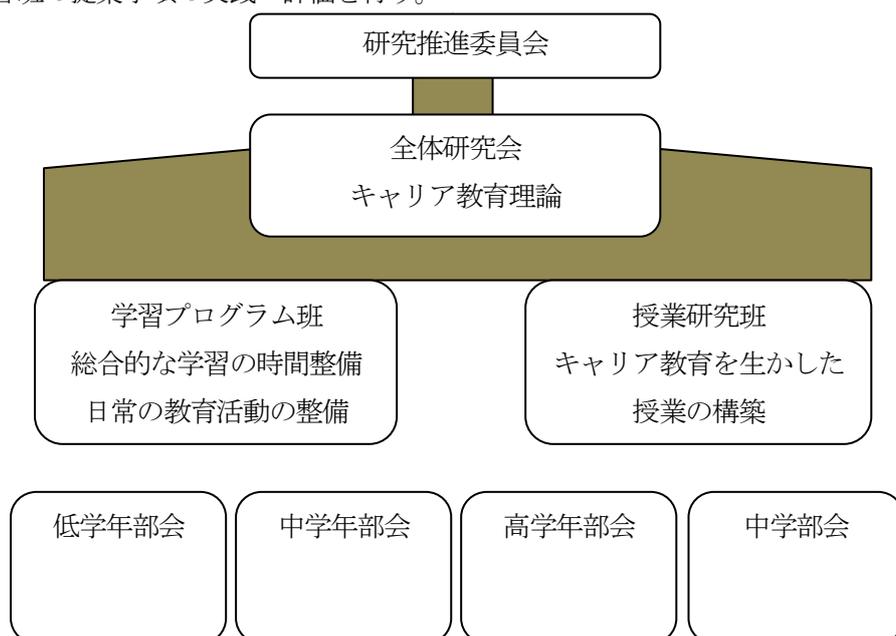
構成：新田小中学校全職員

(3) 各班会

研究主題の具現化を図るために、実践事項の企画・立案・提案・評価を行う。

(4) 各部会

各班の提案事項の実践・評価を行う。



8 研修計画

回	月 日	曜	時 間	内 容 等	備 考
1	4 / 4	水	100分	主題研1 (前年度の研究経過説明及び、今年度の研究の構想説明とキャリア教育)	
2	4 / 11	水			対面式 (中)
3	4 / 18	水			家庭訪問
4	4 / 25	水	55分	主題研2 (キャリア教育理論研究)	
5	5 / 2	水	85分	職員研修：生徒指導 児童生徒総会対応 分掌部会 (6月行事)	
6	5 / 9	水	55分	職員会 (6月行事)	
7	5 / 16	水	55分	主題研3・4 (全研 班組織、授業研分担 キャリア教育理論研究)	
8	5 / 23	水	55分	主題研5 (全研・班研 研究内容協議)	
9	5 / 30	水	85分	主題研6 (班研 研究の実際 全研 小1授業事前研)	
10	6 / 6	水	55分	主題研7 (全研 小1授業事後研)	
11	6 / 13	水	55分	分掌部会 (7月8月行事) 職員研修 (特別支援教育)	
12	6 / 20	水	55分	職員会 (7月8月行事)	
13	6 / 27	水	(30分)	(班研作業)	専門委員会
14	7 / 4	水	85分	学年会	修学旅行 (中)
15	7 / 11	水	55分	主題研8 (全研 班研報告)	
16	7 / 18	水	55分	分掌部会 (学期反省)	
夏期休業中【別途計画・分掌部会、職員会 (9月行事) 各作業、部事前研を含】					
17	8 / 29	水	85分	職員研修：生徒指導	
18	9 / 5	水	55分	分掌部会 (10月行事) 主題研9 (部研 授業準備)	
19	9 / 12	水	55分	職員会 (10月行事)	
20	9 / 19	水	(55分)	(個人研 授業実践と報告書まとめ)	体育大会準備
21	9 / 26	水	55分	主題研10 (部研究授業・事後研)	
22	10 / 3	水	30分	主題研11 (全研、部研報告)	専門委員会
23	10 / 10	水	55分	分掌部会 (11月行事) 主題研12 (班研、研究内容見直し)	
24	10 / 17	水	55分	職員会 (11月行事)	
25	10 / 24	水	85分	職員研修 特別支援教育	

26	10/31	水	55分	主題研13 (全研、訪問授業検討)	
27	11/7	水	85分	主題研14 (全研、訪問授業事前研・準備)	
28	11/14	水	55分	分掌部会 (12月行事) 主題研15 (学校訪問準備)	
29	11/21	水	55分	職員会 (12月行事)	
30	11/28	水	85分	主題研16 (学校訪問・全研)	
31	12/5	水	55分	分掌部会 (1月行事) 主題研17 (学校訪問反省・まとめ)	
32	12/12	水	55分	職員会 (1月行事)	
33	12/19	水	85分	主題研18 (班研・研究のまとめ) 分掌部会 (学期反省)	
冬期休業中 (別途計画・教育課程検討①含)					
34	1/9	水	85分	分掌部会 (2月行事) 職員研修: 生徒指導研	
35	1/16	水	55分	職員会 (2月行事)	
36	1/23	水	55分	主題研19 (班研 研究の反省まとめ) 教育課程①	
37	1/30	水	55分	主題研20 (全研 研究紀要作成説明、作業) 教育課程②	
38	2/6	水	30分	分掌部会 (3月行事)	
39	2/13	水	55分	職員会 (3月行事、卒業式)	
40	2/20	水	55分	主題研21 (全研 研究紀要作成作業) 教育課程③	
41	2/27	水	55分	主題研22 (全研 研究紀要作成 次年度研究について) 教育課程④	
42	3/6	水	55分	分掌部会 (年間反省) 進級判定会	
43	3/13	水	(85分)	(期末整理 小学部)	振替休業日 (中)
44	3/26	火		職員会 (反省・教育課程)	修了の日
学年末期休業中 (別途計画)					

- 研究推進委員会は、原則として職員研修会の前週の火曜日を開く。また、職員研修会後にも毎回開く。
- 生徒指導・道徳・特別活動・人権教育・特別支援教育・総合的な学習の時間・幼保小中高連携・外国語活動等については、夏期休業中を利用して研修会を実施する。

